大正十五年七月三十一日
達衛第三七〇一號警察部長通牒
大分縣立治療院長　大分醫院長
別府醫院長　臼杵醫院長
佐賀關醫院長宛

縣ニ縣下娼妓待遇改善調査ノ結果更ニ之カ檢診治療上寄接ノ關係ヲ有スル縣立治療院ニ對シテモ適當ノ措置ヲ講ズルノ必要ヲ認メ差シ當リ別紙各事項ノ通リ來ル八月一日ヨリ施行致スベク相定メ候條之カ取扱上遺漏ナキヲ期セラルベシ（警察署長ハ）一般ノ注意ヲ以テ實行方取計ハルベシ

縣立治療院改善ニ關スル件

一、檢診ニ關スル事項
（イ）檢診當日ハ必ス上下部ノ檢診ヲ勵行シ發見シタル花柳病以外ノ患者ニシテ希望者ニ對シテハ處方箋ヲ交付スルコト
（ロ）入院ノ程度ニ達セサル者ニ對シテハ（假令輕微ナル剝脱ノ如キ）通院治療ヲ爲スコト
（ハ）入院治療ヲ要スル花柳病患者中設備ノ關係上收容不能ノ場合ハ通院治療ヲ爲スコト
（ニ）檢診當日事故不參者ニ對シテハ其事由ヲ警察署ニ於テ逐一調査シ假令醫師診斷書ヲ有スル者ト雖モ爲念一應往診スルコト但醫師診斷書ニハ患者ノ病況ヲ記入セシムルヲ要ス

二、入院中ノ娼妓慰安ニ關スル事項
（イ）毎日一定時間ヲ限リ一定ノ場所ニ於テ院外ノ散歩ヲ認ムルコト
（ロ）毎週一回位看護婦引率ノ下ニ活動寫眞等ヲ見物セシムルコトヲ得

●私立病院規則

〔大分縣〕

改正　大正一三年一一月縣令第五五號

大正十年三月二十二日
大分縣令第二十一號

私立病院規則左ノ通定ム

私立病院規則

第一條　病院ヲ設立セントスル者ハ左記事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
第二號乃至第六號及第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一、本籍住所氏名生年月日但法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行爲寫及其ノ事務所々在地
二、病院ノ名稱、院則、入院料、其他收受スヘキ種目金額
三、病院設立ノ場所
四、建物ノ設計仕樣書並圖面（配置圖、平面圖、斷面圖）
五、井戸ノ水質試驗成績書
六、醫師、藥劑師、看護婦、及收容スヘキ患者ノ定員
七、敷地及比隣二町内ノ見取圖
八、工事著手及落成ノ期日

第二條　病院ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ建物ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ第二號ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ
一、屋根ハ不燃質物ヲ以テ葺クコト
二、建物ノ周圍ニハ二間以上ノ空地ヲ有スルコト
三、病棟ノ廊下ハ幅三尺以上トナスコト但シ中廊下ナルトキハ六尺以上トスルコト
四、病棟ハ一棟毎ニ幅六尺以上ノ非常出入口ヲ設ケ外開キト爲スコト
五、病室ノ床下ハ地盤ヲ距ル二尺以上天井ハ床上九尺以上タルコト
六、二階病室ノ階段ハ幅四尺以上蹴上ケ六寸以下踏面八寸以上トナシ堅牢ナル手摺ヲ設クルコト
七、二階病室十五坪以上ナルトキハ階段二個以上ヲ設クルコト
八、二階ノ床板ハ汚物及塵芥ノ漏レサル樣合決又ハ實入トシ地盤ニ接スル床板ハ消毒及掃除ノ爲メ取外シ得ル樣裝置ヲ爲スコト
九、病室ノ廣サハ患者一人ニ付一坪半以上ニシテ出入口ノ外採光換氣ノ裝置ヲ爲スコト
一〇、炊事場及浴室ノ火焚場ハ不燃質ノ材料ヲ以テ構造スルコト
一一、浴場、洗濯場及汚物消毒場ヲ設クルコト
一二、大手術室及死體解剖室ハ土間トシ「モルタル」又ハ漆喰敲ト爲スコト
一三、炊事場、消毒場、便所ノ地盤屎尿壺下水溜汚水放流口及其ノ周圍並下水溝ハ不滲透質物ヲ以テ築造スルコト
一四、井戸ハ便所及汚物溜ヲ距ル五間以上ノ距離ヲ保ツコト
一五、煙突ノ高サハ屋棟上三尺以上トシ放出口ニハ七分目以下ノ金屬製金網ヲ被覆シ屋根若ハ壁等ニシテ煙突ノ接觸スル部分ハ防火ノ設備ヲ爲スコト但シ土地ノ狀況ニ依リ煙突ノ高サハ斟酌スルコトアルヘシ
一六、前各號ノ外必要ト認ムルトキハ隨時施設ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　傳染病患者ヲ入院セシムル病院ニ在リテハ前條ニ依ルノ外尙ホ左ノ制限ニ從フヘシ但シベスト、虎列刺、痘瘡、發疹チフスハ入院セシムヘカラス
一、病室ハ平屋建ト爲スコト
二、病室ハ他ノ建物ト五間以上ノ空地ヲ有シ別棟トナスコト
三、患者ノ浴室、便所、消毒所及汚物燒却場ハ別ニ設クルコト

第四條　病院ニハ相當ナル消防設備ヲ爲スヘシ

第五條　工事落成シタルトキハ知事ニ屆出認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六條　病院ニハ醫師二名藥劑師一名看護婦二名以上ヲ置クヘシ

第七條　醫師、藥劑師、看護婦ヲ採用シタルトキハ十日以内ニ其ノ本籍住所氏名生年月日資格證明寫ヲ添ヘ屆出ヘシ
解雇シタルトキハ十日以内ニ其旨屆出ヘシ

第八條　病室ハ常ニ清潔ヲ旨トシ寢具ハ清潔ナル白布ヲ以テ覆フヘシ

第九條　傳染病患者ノ看護ハ一定ノ看護人ヲシテ擔當セシメ普通病患者ノ看護人ト區別スヘシ

第十條　本則ニ依リ許可ヲ受クルモノニアラサレハ病院ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第十一條　病院ニ非スシテ患者十名以上ヲ收容治療スルコトヲ得ス但シ眼科專門ヲ標榜スル者ハ特ニ患者二十名迄ヲ收容スルコトヲ得

第十二條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
一、第一條ノ許可ヲ受クタル日ヨリ三ケ月以内ニ工事ニ著手セサルトキ
二、落成期日ヲ經過シ工事竣成ノ見込ミナシト認ムルトキ
三、休業六ケ月以上ニ亘リタルトキ
四、本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違反シ改悛ノ情ナシト認ムルトキ
五、前各號ノ外公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムルトキ

第十三條　衛生上公益上必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ若ハ制限シ又ハ移轉增築改築其ノ他適當ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ヘシ但シ設立者死亡ニ關シテハ相續人ヨリ屆出ヘシ
一、第一條第一號ニ異動ヲ生シタルトキ
二、三十日以上休院セントスルトキ
三、病院ヲ廢止シタルトキ

第十五條　病院ハ別記樣式ニ依リ毎年病院表ヲ作成シ翌年一月末日迄知事ニ屆出ヘシ

第十六條　相續ニ依リ病院ヲ繼續スル場合ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ相續人ハ十日以內ニ知事ニ屆出ヘシ

第十七條　本則ニ依リ提出スル書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十八條　本則ノ規定ハ病院ノ分院ニ之ヲ適用ス

第十九條　本則第一條乃至第三條第五條乃至第十一條第十四條第十五條第十六條第二項ニ違反シ又ハ第二條第十六號第十三條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十條　設立者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ノ罰則ハ法定代理人ニ適用ス設立者カ法人ナルトキハ本則ノ罰則ハ法人ニ之ヲ適用ス法人ヲ劃スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ被告人トス

設立者ハ其代理人戶主家族同居者雇人其ノ他從事者ニシテ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルヽコトヲ得ス

第二十一條　本則ノ規定ハ公立病院ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十二條　本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　明治二十二年大分縣令甲第一號ニ依リ許可ヲ受ケタル病院ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ病院ニシテ本則第二條第三條ニ適合セサルモノハ將來改築ニ至ル迄之ヲ猶豫シ其他ノ條項ハ大正十一年三月迄猶豫ス但シ猶豫中ト雖第十三條ノ適用ヲ妨クルコトナシ

第二十四條　明治二十二年一月縣令甲第一號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（用紙奬勵紙）

病院表　（大正）何年）　何々病院

所在地	入院患者數	外來患者數	計	前年越數	合計

記載例

一、所在地ハ病院所在ノ町村名ヲ記入スルコト

二、入院外來兩患者ハ年中事實ヲ正確記入スルコト

三、傳染病患者ヲ入院セシメタルトキハ入院者數欄內ニ病名及其數ヲ朱記スルコト

●私立病院規則取扱手續

大正十年三月二十二日
大分縣訓令第八號

警察者（警察分署）

私立病院規則取扱手續左ノ通定ム

私立病院規則（以下單ニ規則ト謂フ）

第一條　私立病院規則（以下單ニ規則ト謂フ）

第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左記各號ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一、願書記載ノ事項ハ具備スルヤ否且事實相違ノ廉ナキヤ否

二、第二條第二號又ハ同條第十五號但書ニ依リ警酌許可スヘキモノト認ムルモノハ其ノ事由

三、出願地三丁以內ニ官公署社寺學校會社工場等ノ有無及其ノ距離

第二條　規則第五條ノ屆出ヲ受理シタルトキハ左記各號ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一、規則第一條願書記載ノ事項ハ事實相違ナキヤ否

二、消防設備ノ狀況

三、病院內設備ハ完成シ居ルヤ否

第三條　規則第十二條同第十三條ニ依リ業務ノ停止制限許可ノ取消又ハ移轉增築改築等ノ必要ヲ認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ報告スヘシ

第四條　規則第十四條乃至第十六條ノ屆書ヲ受付ケタルトキハ速カニ進達スヘシ

第五條　警察署長（同分署長）ハ毎年一回病院ヲ視察シ尙ホ監督者ヲシテ隨時視察セシメ不都合ナキ樣取締ヲ勵行スヘシ

●恩賜財團濟生會大分縣救療規程

大正元年八月十日
大分縣告示第七號

沿革　大正二年九月告示第二五五號、三年一月第一九號、四年五月第一四七號、五年六月第二〇〇號、六年九月第二一八號、九年四月第一六一號、一五年六月第二五六號、昭和七年一一月第七四五號

恩賜財團濟生會救療規程左ノ通定メ大正元年八月十五日ヨリ施行ス

恩賜財團濟生會大分縣救療規程

救療者

第一條　疾病傷痍ニ罹リ治療ノ資力ナク他ニ公私救療ヲ受クルノ途ナキ者ハ本規程ニ依リテ之ヲ救療ス

第二條　救療ヲ受ケントスル者ハ警察署巡查駐在所市町村役場又ハ方面委員ニ申出ヘシ

第三條　警察署長又ハ市町村長前條ノ申出ヲ受ケタルトキ又ハ救療ノ必要アル患者ヲ發見シタルトキハ協議ノ上其要否ヲ決定スヘシ

駐在巡查方面委員ニ於テ救療ノ申出ヲ受ケ又ハ救療ヲ要スヘキ患者ヲ發見シタルトキハ駐在巡查ハ署長ニ方面委員ハ市町村長ニ申告シ指揮ヲ受ケヘシ

急ヲ要スル場合ハ救療ニ著手シ駐在巡查ハ署長ニ方面委員ハ市町村長ニ報告スヘシ

救療機關

第四條　救療ハ縣內公私立病院並一般開業醫師（醫科ヲ含ム）ニ之ヲ委託ス但シ大正四年大分縣告示第百十一號及同第百四十九號ニ依ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　救療ヲ受クル者ハ最寄ノ病院又ハ醫師ニ就キ治療ヲ受クヘシ但時宜ニ依リテハ治療ヲ受クヘキ醫師ヲ指定スルコトアルヘシ

第六條　重病者ニシテ病院又ハ醫師ノ許ニ至リ難キ者ハ來診治療ヲ求ムルコトヲ得

第七條　重病者又ハ大手術ヲ要スル者ハ主治醫ニ於テ警察署長又ハ市町村長ト協議シ公私立病院又ハ醫師ノ許ニ入院セシムルコトヲ得

第八條　患者ハ故ナクシテ主治醫ヲ換ユルコトヲ得ス主治醫ニ於テ治療上ノ必要ヨリ治療所ヲ變更セントスルトキハ其旨警察署長又ハ市町村長ニ通知スヘシ

救療方法

第九條　救療ノ必要アリト認ムル患者ニハ警察署巡查駐在所市町村役場方面委員ヨリ治療券ヲ交付ス

第十條　患者治療ヲ受クルトキハ其都度治療券ヲ醫師ニ提示シ所要事項ノ記載ヲ受ケ患者之ヲ保管シ使用濟ノ後ハ直ニ之ヲ醫師ニ差出スヘシ

第十一條　同一治療券ニヨリテ治療ヲ受クル期間ハ十日以內トス

第十二條　十日以上ニ亘リ繼續治療ヲ受ケントスル者又ハ治療所ヲ變更スル者ハ更ニ治療券ノ交付ヲ受クヘシ

第十三條　治療券ノ使用ハ記名者ニ限ル之ヲ毀損亡失シタルトキハ其旨申出更ニ交付ヲ受クヘシ

治療料金

第十四條　治療料金ハ左ノ如シ

普通醫療

一、入院料（賄費、滋養品費、藥品費、治療用品費共）　一日　八拾錢

一、藥治料

內服藥　一劑一日分　七錢

但シ二劑以上ヲ併用スルトキハ　拾貳錢

頓服藥　一回分　四錢

外用藥　一劑　七錢

一、處置料　一回　貳拾錢

一、檢査並注射料一回　五拾錢

一、手術料　一回　壹圓

但シ大手術ヲ要スル場合ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一、往診料　貳拾五錢

片道一里ヲ超ユル場合ハ一里又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ拾五錢增、

夜間（自午後十時至午前六時）往診ハ五割增トス

一、初診料、診斷書料　無料

齒科治療

一、藥治料其他

內服藥、頓服藥一日分　七錢

含嗽藥、毫法藥四百グラム　五錢

治療一齒　一回　七錢

齒髓炎　七錢

口內炎、舌炎　七錢

口腔內消炎手術一ヶ所　拾五錢

【大分書】

手術後處置料　一回　七錢

外科後處置料

イ、洗滌塗布　七錢

ロ、メンポン交換　六錢

ハ、其ノ他

拔齒　一齒　普通　拾七錢

特別　拾貳錢

充塡ゴム一齒　拾五錢　セメント、アマルガム一齒　貳拾八錢

繃帶材料　簡易　拾五錢　參拾錢

三角印　拾貳錢　卷軸帶　七錢

一、往診料　拾五錢

片道一里ヲ超ユル場合ハ一里又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ拾五錢增、

夜間（自午後十時至午前六時）往診ハ五割增トス

診斷書料　無料

第十五條　前條ノ治療料金ハ濟生會ヨリ治療ヲ爲シタル醫師ニ直接支拂ヲ爲ス

事務取扱

第十六條　治療券ハ請求ニ依リ警察署長及市町村長ニ配付ス

治療券ノ配付ヲ受タルトキハ要救療者見込數ニ依リ警察署長ハ巡査駐在所ニ市町村長ハ方面委員ニ諮メ之ヲ配付シ置クヘシ

第十七條　警察署長及市町村長ハ治療券受拂簿ヲ作製シ常ニ部內ニ於ケル使用數ニ注意シ之ヲ按排スヘシ

第十八條　治療ニ從事シタル病院又ハ醫師使用濟ノ治療券ヲ受領シタルトキハ七日以內ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ市町村長ニ差出スヘシ但縣立病院ハ直チニ知事ニ提出スルコトヲ得

第十九條　市町村長ニ於テ前條ノ治療券ヲ受領シタルトキハ之ヲ調査シ一ヶ月每ニ取纏メ翌月十日迄ニ知事ニ提出スヘシ

治療券樣式（西洋紙縱四寸八分　橫三寸八分）

【大分書】

表

第　號

恩賜財團　濟生會治療券

取扱所

交付　大正　年　月　日

治療所

受住所

職業

療男女

者氏名

年　月　日生

このふだを持參すれば病院又は醫師は無料にて治療します　但本券一枚の治療期間は十日以內です

本券の治療を受け終りたるときは本券を治療醫に渡されたし

病院又は醫師に赴きて診療を受け難き者は本券を差出して醫師に來診を求むることも出來ます

（大分縣）　大正　年　發行

裏

| 病名 | | |

承右ハ異存無之候就テハ本縣患者ニシテ貴縣醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ハ一週間以内ニ該醫師ヨリ直接本縣ヘ其患者氏名ヲ通知可致樣御示達相成度別紙本縣規程及縣下熊本市醫師會協定額寫相添及問答候也

（別紙）　其ノ一

恩賜財團済生會福岡縣救療規程　明治四十五年七月福岡縣告示第四一三號

第一條　扶養ノ途ヲ有セス醫藥ノ資力ナク救療ノ必要アル者ハ本規程ニ據リ之ヲ救療ス

第二條　郡長ハ前條ノ該當者ヲ調査シ町村長ヲシテ速メ救療人名簿ヲ調製セシムヘシ

市長ハ前項ニ準シ人名簿ヲ調製スヘシ

第三條　郡長ニ於テ豫算ノ配當ヲ受ケタルトキハ更ニ之ヲ各町村ニ配當スヘシ

第四條　救療ヲ受ケントスル者ニハ別紙樣式ノ治療券及處方箋ヲ交付ス

治療券及處方箋ハ市町村長ニ於テ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第五條　警察官吏又ハ區長ニ於テ救療ノ必要アリト認メタル者アルトキハ直ニ市町村長ニ通知スヘシ但シ特ニ急速ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ治療ヲ受ケシメ後相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　治療券及處方箋ノ交付ヲ受ケタル者ハ之ヲ病院又ハ開業醫若ハ藥劑師ニ提出シ治療投藥ヲ請フヘシ

第七條　治療券及處方箋ノ有效期間ハ七日以内トス有效期間滿了シタル治療券ハ直ニ之ヲ返納ゾ倚引續救療ヲ受ケムトスル者ハ其旨申出更ニ交付ヲ請フヘシ

第八條　治療券及處方箋ノ使用ハ記名者ニ限ル

治療券及處方箋ヲ毀損亡失シタルトキハ市町村長警察官吏又ハ區長ニ其旨申出再交付ヲ受クヘシ

第九條　救療ハ縣下公私立病院並開業醫及藥局開設ノ藥劑師全部ニ委託ス

第十條　救療各料金左ノ如シ

一、入院料　一日　金參拾五錢

二、藥價　一日　金五錢

三、診療料（往診）金參拾錢（宅診）金貳拾錢

第十一條　救療ニ從事シタル醫師、藥劑師ハ別紙樣式ニ依リ毎年七月、一月、兩度ニ前六ヶ月分ニ於ケル各料金請求書ヲ市町村長ニ提出スヘシ

第十二條　市町村長ニ於テ前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ調査シ翌月十日以内ニ使用濟治療券ヲ添ヘ（町村長ハ郡長ヲ經テ）縣廳ニ請求スヘシ

治療券樣式（用紙西洋紙縱四寸五分横三寸）

表

恩賜財團　済生會治療券

取扱市町村長名

交付　年　日

治療券

受療者　住所　職業　氏名　年齢　歳

一、このふだをもちゆけばただでくすりをもらわれます

一、七日たてばこのふだはもらいふかなければなりません

一、なにかきけばゆかしさやいしやのうけられます

（福　岡　縣）

治療券付屬處方箋樣式

表

恩賜財團　済生會處方箋

住所
氏名
年齢　歳

處方　年　月　日

醫師氏名㊞

（福　岡　縣）

裏

病名	初診	入院	廢療	退院	轉歸	記事

投藥日數	施術數
月日　月日分 月日　月日分 計　月日分	往診度數　月日　月日計 在院日數　日間

請求書

一金　何程

但別紙治療券何葉ノ通

右及請求候也

年　月　日

住所

醫師氏名㊞

恩賜財團済生會御中

（用紙半紙形罫紙）

請求書

一金　何程

內訳

調劑日數	藥劑師	開設藥局	記事
月　日 月　日 月　日 計　日分	住所 氏名		

交付　年　月　日

このふだをもちゆけばただでくすりをもらわれます

金何程　醫師何某ノ處方箋ニ依リ何某ニ對スル調劑日數何日分

金何程　醫師何某ノ處方箋ニ依リ何某ニ對スル調劑日數何日分

右請求候也

年　月　日

住所　藥劑師　氏　㊞

恩賜財團濟生會御中

（別紙）其ノ二

恩賜財團濟生會熊本縣救療事業實施規程

第一條　救療事業ニ關スル事務ヲ處理スル爲メ左ノ役員ヲ置キ事務所ヲ熊本縣廳内ニ置ク

委員長　一名

委員　若干名

商議員　若干名

時宜ニ依リ專任事務員ヲ置クコトアルヘシ

第二條　郡長、市町村長及警察官吏ニ救療事業實施ニ關スル事務ノ一部ヲ委囑ス

第三條　救療ハ公立病院及熊本縣醫師會（以下醫師會ト略稱ス）ニ委託ス

第四條　救療委託ニ對シ熊本縣醫師會ニ委託金ヲ交附ス其金額ハ毎年度ノ始メニ之ヲ決定スルモノトス

委託金ハ醫師會員ニ對スル治療費ノ辨償ノ資ニ充ツルモノトス

〔大分書〕

治療費ハ藥價手術料及入院料ノ三種トシ醫師會ハ藥價手術料ニ對シ熊本市醫師會ノ協定額ノ二分ノ一入院料ニ對シ其院規定額ノ二分ノ一ノ割ヲ以テ辨償ヲ爲スモノトス但シ治療費ノ辨償ヲ爲スヘキ總額委託金ノ額ニ超過スル場合ハ按分ヲ以テ遞減辨償スルモノトス

第五條　委託金ノ收支ハ事業ノ功程ト共ニ年度經過後二ケ月以内ニ醫師會ヨリ本事務所ニ報告スヘシ

決算上委託金ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ還納スルモノトス但本事務所ノ許可ヲ得テ翌年度ニ繰越シ治療費ノ辨償費ニ充ツルコトヲ得

第六條　救療ノ要否ハ市町村長及警察官吏（警察署及警察分署所在地ハ其署長其他ハ駐在巡査）相協定シ其必要アル者ニ對シテハ市町村長ニ於テ左記樣式ノ治療券ヲ交附ス

市町村ハ治療券配付人名簿ヲ備ヘ治療券ヲ交附シタルトキハ其住所氏名及交付年月日ヲ記入スヘシ

第七條　治療券ヲ受ケタル者ハ醫師會員タル醫師又ハ本會ヨリ委託シタルケ所ニ就キ無料ニテ診療ヲ求ムルコトヲ得

第八條　救療券ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルヲ要ス

一、恤救規則ニ依ル救助ヲ受クル者

二、戸別割ノ免除ヲ受クル者（適當ノ扶養義務者ヲ有シ又ハ他ニ公私救療ヲ受クルノ途アル者ヲ除ク）

三、前二項ニ該當セサルモ貧窮ニシテ救療ノ必要アリト認ムル者

第九條　從來主トシテ救療ニ從事スル慈善團體ニ救療ヲ委託シ補助ヲ爲スコトアルヘシ

治療券樣式

（表）

聖旨ヲ奉體シテ本券ヲ發行ス

救療ヲ受クル者及救療ニ關係スル者ハ常ニ之ヲ念頭ニ留メヨ

交付者職名印氏名	交付年月日	有效期限	恩賜財團濟生會治療券	患者 住所	戸主名及戸主トノ續柄	職業 戸主	職業 患者	姓名	生年月日
	大正　年　月　日	大正　年六月末日限リ	熊本縣						年　月　日

（面）

一、本券ノ效力ハ記名者一人ニ限ルモノナリ若他ノ家族ニシテ救療ヲ受ケムトスル者ハ別ニ治療券ノ交付ヲ受クヘシ

一、本券ハ毎年六月末日以前ニ交付シタルモノハ六月末日ニテ效力ヲ失ヒ十二月末日以前ニ交付シタルモノハ十二月末日迄ニテ效力ヲ失フモノニ付兩期若ハ兩期以上ニ渉ル者ハ一期毎ニ治療券ノ交付ヲ受クヘシ

一、表面ハ市町村長ニ於テ記入シ裏面ハ醫師ニ於テ記入スヘシ

〔大分書〕

（裏）

患者姓名	病名（概括的名稱ハ之ヲ用ヰヘカラス）	轉歸（全治、輕快、廢疾、移療、死亡又ハ治療中ノ一ヲ記スルコト）	救療費	救療初ノ年月日	救療終ノ年月日
患者ノ新舊別（前期ヨリ中絶ナク治療ヲ續クル者ヲ舊患者ト稱ス）	眼病ト云フカ如キ	治療日數（休療日ヲ加ヘサル正味ノ日數ヲ記スルモノニシテ投藥劑數ニハ非ス）日	治療種別（外來、往診、入院三種中何レカ最モ長カリシカヲ記スルコト）		

（市）醫師會名　　醫師名　　署印

全額金　　也　内譯

内　手術料　入院料　處置料

本金額ハ診療料、檢査料ヲ含マス又定額其ノ儘ニシテ割引額ニ非ス

入院ノ處置　外用藥　頓服藥　分服藥

劑　劑　回　回　日

熊本市醫師會協定額調

一、藥價

内用　各種一劑　一日　拾錢

頓服　一回　五錢

外用　塗布藥、塗擦藥、膏藥、五瓦　五錢

坐藥　一個　五錢

〔大分警〕

點眼藥、點耳藥、　五瓦　五錢

洗滌藥、含嗽藥、吸入藥、　三百瓦　六錢

一、手術料　一回　貳拾錢

一、入院料　其ノ院規定額

備考

前揭治療料金等ハ實施規程第四條第三項ニ依リ其ノ二分ノ一ヲ以テ辨償ス

一、其他生活困難ノ狀態ニアル者ニシテ特ニ事情已ムヲ得スト認ムル者及其ノ家族

前各號ニ該當スル者ト雖モ經費ノ都合ニヨリ救療ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二條　救療ヲ受ケシムル者ニハ治療券ヲ交付ス治療券ハ別紙雛形ニ依ル

第三條　救療ヲ受ケムトスル者ハ町村長若ハ區長又ハ警察官吏ニ申出ヘシ

第四條　町村長警察官吏前條ノ申出ヲ受ケタルトキ又ハ救療ヲ要スル者アリト認メタルトキハ之ヲ調査シ第一條ニ該當スルトキハ治療券ニ相當事項ヲ記載シ之ヲ交付スヘシ

第五條　區長救療ノ申出ヲ受ケタルトキ又ハ救療ヲ受シムル必要アリト認ムル者アルトキハ第一條ノ條項ヲ調査シ町村長又ハ警察官吏ヨリ治療券ヲ受ケテ之ヲ交付シ又ハ之ヲ受ケシムルモノトス特ニ急速治療ヲ要シ前項ノ手續ヲ爲ス遑ナキトキハ直ニ治療ヲ受ケシメ後前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　治療券ノ交付ヲ受ケタルモノハ之ヲ診療者ニ提出シ治療ヲ請フヘシ

第七條　治療券ノ有效期間ハ二十日以内トス

恩賜財團濟生會患者隣縣相互診療ニ關シ宮崎縣ト左記ノ通協定發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年五月二十日
大分縣告示第百四十九號

恩賜財團濟生會患者隣縣相互診療ニ關スル件

一、土地ノ狀況ニ依リ本縣患者ニシテ宮崎縣ノ醫師ニ診療ヲ受クルヲ便宜トスル場合ハ同縣ノ醫師ニ診療ヲ受ケシメ其治療料金ハ本縣規程ニ依リ該醫師ヨリ直接本縣ヘ請求シ又宮崎縣患者ニシテ本縣ノ醫師ニ診療ヲ受クル場合ハ別紙宮崎縣ノ規程ニ基キ其治療料金ヲ醫師ヨリ直接同縣ヘ請求スヘシ協定セリ

恩賜財團濟生會宮崎縣救療規則

第一條　町村住民ニシテ疾病ニ罹リ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ救療ス但シ他ニ公私救療ノ途アルモノハ此ノ限ニ在ラス

一、貧困ニシテ適當ニ扶養義務ヲ行フ者ナキカ又ハ之レアルモ治療ヲ受ケシムル能ハサルトキ

一、公費ノ負擔ヲ減免セラレ現ニ貧困ニシテ醫療ヲ受クル能ハサルモノ及其ノ家族

前項ノ期間ヲ過キ引續キ救療ヲ受ケムトスルモノハ更ニ第三條ノ手續ヲナスヘシ

第八條　救療日數ハ一人四十日以内トス但シ病狀ニ依リ延期救療ヲ爲スコトアルヘシ

第九條　治療券ヲ交付シタル後ト雖モ場合ニ依リ救療ヲ中止スルコトアルヘシ

第十條　治療券ハ券面記載者ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

治療券ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ使用セサルトキハ無效トス

第十一條　治療券ヲ亡失毀損シタルトキハ其旨町村長若ハ區長又ハ警察官吏ニ申出ヲ再交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ町村長若ハ區長又ハ警察官吏ハ再交付ヲ爲シタル旨ヲ關係診療者ニ通知スヘシ

第十二條　虚僞ノ方法ニヨリ救療ヲ受ケタル者ニ對シテハ其費用ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第十三條　診療者ハ診療ノ都度治療券ノ裏面ニ相當事項ヲ記載シ置キ毎月十日迄ニ前月分ヲ町村長ニ送付スルモノトス

町村長ハ前項ノ治療券ヲ治療患者人名綴ト對照シ一月、四月、七月、十月ニ於テ其月十五日迄ニ前三ケ月分ヲ取纏メ郡醫師會ニ送付スヘシ

第十四條　郡醫師會ハ前條ニ依リ送付ヲ受ケタルトキハ其月末日迄ニ診療費請求書ニ治療券ヲ添ヘ知事ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ハ縣醫師會ヲ經由スヘシ

第十五條　町村長ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

（別紙）（表面）　治療券雛形

〔大分書〕

一、治療券受拂簿

一、治療患者人名簿

一、救療費差引簿

一、往復書類綴

第十六條　救療費ハ疾病ニ關スル共濟事業ノ補助ニ充ツルモノヲ除キ豫算ノ範圍内ニ於テ各郡ニ配當ス郡長ハ其配當額ヲ適當ノ標準ニ依リ各町村ニ配當シ知事ニ報告スヘシ

町村長ハ前項ノ配當額ヲ關係警察官吏ニ通知スヘシ

第十七條　前條ニ依リ各郡ニ配當スヘキ救療費ハ總テ縣ニ於テ之ヲ保管ス

第十八條　町村長又ハ警察官吏ハ第十六條ノ配當額ニ應シ治療券ヲ交付スルモノトス

第十九條　縣ハ豫メ郡役所ヲ經テ治療券ヲ各町村ニ配付ス

町村長ハ治療券ノ一部ヲ警察官吏ニ配付シ置クモノトス警察官吏ハ毎月五日迄ニ前月分治療患者人名綴ヲ町村長ニ回付スヘシ

第二十條　特別ノ必要アリト認メタルトキハ巡回救療ヲ爲スコトアルヘシ

第二十一條　本則ニ關スル診療ハ總テ之ヲ宮崎縣醫師會員ニ委託ス

第二十二條　診療ニ關スル費用ハ宮崎縣醫師會ト協定シテ之ヲ定ム

第二十三條　本則ニ定ムルモノヽ外必要ナル規則ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本則ハ明治四十五年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第　號

治療券交付人名綴

受療者	交付年月日	備考
住所		
職業 男女別		
氏名		
年月日生		
治療所 住所		
氏名		

注意　備考欄ニハ交付ノ理由及其他ノ事項ヲ記載スルモノトス

（宮崎縣）

第　號

恩賜財團濟生會治療券

受療者	取扱者
交付年月日	
治療所	
住所	
職業 男女別	
氏名	
年齡	年月日生

注意

一、本券ヲ治療所ニ持參スル者ハ無料ニテ醫師ノ治療ヲ受クルコトヲ得

二、本券ハ初メテ治療ヲ受クルトキ醫師ニ之ヲ渡シ置クモノトス

三、本券ノ有效期間ハ自月日至月日迄トス

四、本券有效期間ヲ過キ引續キ治療ヲ受ケムトスルトキハ更ニ治療券ノ交付ヲ受クヘシ

五、本券ハ交付ノ日ヨリ十日以内ニ使用セサルトキハ無效トス

（宮崎縣）

〔裏面〕

| 治療者 | | 治療券 | | |

一　入院料　一日　金參拾五錢

巡回救療費

一　日數二十日以內ハ一日ニ付　金貳圓
一　日數三十日以內ハ一日ニ付　金壹圓五拾錢
一　日數六十日以內ハ一日ニ付　金壹圓貳拾錢
一　日數六十日以上ハ一日ニ付　金壹圓

車馬賃

一　平道　一里ニ付　金貳拾錢
一　險道　一里ニ付　金參拾錢

恩賜財團濟生會宮崎縣會計規則

第一條　當該年度ノ豫算ニシテ翌年度五月三十一日迄ニ其ノ收支ヲ完了セサルモノハ翌年度所屬トス

第二條　恩賜財團濟生會配付金其ノ他ノ諸收入ヲ以テ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トス

第三條　歲入及歲出ヲ分ツテ經常臨時ノ二部トス

第四條　歲入歲出豫算ハ前年度三月末日迄ニ之ヲ調製スヘシ

第五條　豫算ハ知事ノ決裁ヲ經テ之ヲ定ム其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第六條　歲入歲出豫算ハ之ヲ款項ニ區分スルモノトス

第七條　避ケ可カラサル豫算ノ不足ヲ補ヒ又ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費途ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クルモノトス

第八條　配付金其他ノ諸收入ハ內務部長ノ決判ヲ以テ之ヲ收納スルモノトス

第九條　經費ノ支出ハ內務部長ノ決判ヲ以テ之ヲ執行スルモノトス

第十條　豫算各款項ノ金額ハ知事ノ決裁ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ救療費ハ他ニ之ヲ流用スルコトヲ得ス

第十一條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越スモノトス

第十二條　決算ハ翌年度七月三十一日迄ニ豫算ノ樣式ニ從ヒ之ヲ調製シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第十三條　現金ハ當座預金トシテ銀行ニ預ケ置クモノトス

第十四條　物件ノ賣買貸借ハ內務部長ノ決判ヲ以テ之ヲ執行スルモノトス

第十五條　物品ノ出納ハ內務部地方課長之ヲ執行スルモノトス

第十六條　本則ニ定ムルモノヽ外必要ナル規定ハ別ニ之ヲ定ム

●恩賜診療ニ關スル訓令

昭和七年十二月六日
大分縣訓令第六十四號

市町村長　醫案者長

今般農漁山村其ノ他疲弊セル地方救療ノ資トシテ　聖恩優渥洵ニ感激ノ至リニ禁ヘス　玆ニ御聖旨ノ存スル所ヲ思召ヲ以テ御內帑金ヲ下賜セラル　聖恩優渥洵ニ感激ノ至リニ禁ヘス　玆ニ御聖旨ノ存スル所ヲ奉シ內務省及大分縣醫療費ヲ加ヘ救療ノ實ヲ擧ケンコトヲ期ス宜シク熟誠事ニ當リ關係方面ト協力シ實施上遺憾ナキヲ期スヘシ

●恩賜診療規程

昭和七年十二月六日
社第三五九一號學務部長通牒

市町村長　醫案者長宛

恩賜診療取扱手續ニ關スル件依命通牒

本日別途調令相成候恩賜診療事務ニ關スル取扱手續等別紙恩賜診療規程ニ依リ御了知ノ上十分趣旨ノ徹底ヲ期スル樣御配意相成度此段及通牒候也

恩賜診療規程

第一條　恩賜診療ハ左ニ揭クル者疾病傷痍ニ罹リ診療ノ資ナク且他ニ公私療養ノ途ナキ場合ニ之ヲ行フ

一、市町村稅、特別稅戶數割ヲ納付スル資力ナキ者及其ノ家族
二、市町村稅、特別稅戶數割納額カ當該市町村ノ一戶平均額ノ三分ノ一ヲ超エサル者及其ノ家族
三、一人年所得九拾圓未滿一世帶年所得三百圓未滿ノ者及其ノ家族
四、前各號ノ外市町村長、警察官吏又ハ方面委員ニ於テ其ノ必要アリト認メタル者及其ノ家族

第二條　診療ハ左ノ區域ニ之ヲ行フ

一、特別市町村（前年度ニ於テ市町村義務教育費國庫負擔法第五條ニ依リ交付金ノ增額支給ヲ受ケタル市町村）
二、醫療施設ナキ爲醫療ニ支障アリト認メタル市町村

第三條　當該市町村長、警察官吏又ハ方面委員ハ第一條ニ該當スル者アリト認メタルトキハ之ニ市町村役場印ヲ押捺シタル診療券ヲ交付スヘシ

第四條　醫療ハ縣內公私立病院並開業醫、開業藥劑師ニ之ヲ委託ス

第五條　醫療ハ診療券又ハ藥劑券ノ提示ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條　重病患者ニシテ病院又ハ醫師ノ許ニ至リ難キモノハ來診治療ヲ求ムルコトヲ得

第七條　醫師ノ意見ニ依リ患者ノ入院ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ當該市町村長ハ豫メ知事ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　月ヲ超エ繼續醫療ヲ必要トシ又ハ醫師ノ變更ヲ必要トシ若ハ診療券又ハ藥劑券ヲ亡失毀損シタル場合ニ於テハ患者ハ改メテ其ノ交付ヲ受クヘシ

使用濟若ハ前項ニ依リ不用トナリタル診療券又ハ藥劑券ハ遲滯ナク之ヲ醫師又ハ藥劑師ニ差出スヘシ

第九條　醫療費ハ救護法施行細則ニ定ムル額ニ準スルモノトス

第十條　醫師又ハ藥劑師使用濟又ハ不用トナリタル診療券又ハ藥劑券ヲ第八條第二項ニ依リ受領シタルトキハ之ニ所定ノ事項ヲ記載シ前月分ヲ每月五日迄ニ其ノ交付ヲ爲シタル市町村長ニ廻付スヘシ

第十一條　市町村長ハ前條ノ診療券ニ依ル請求金額ヲ受療者名簿（樣式第一號）ニ記入シ診療券ニハ經由印ヲ押捺ノ上郡市醫師會長ヘ送付スヘシ

郡市醫師會長診療券ノ送付ヲ受ケタルトキハ請求金額ヲ査定ノ上之ヲ縣醫師會長ヘ送付スヘシ縣醫師會長ハ更ニ之ヲ審査ノ上知事ニ提出スヘシ

藥劑師ヨリ廻付ヲ受ケタル藥劑券ハ第一項ノ例ニ依リ其ノ請求金額ヲ受領者名簿ニ記入シ經由印ヲ押捺ノ上直接知事ニ提出スヘシ

第十二條　市町村長ハ診療券、藥劑券交付簿（樣式第二號）受療者名簿及診療費整理簿（樣式第三號）ヲ作成ノ上所定ノ事項ヲ記入シ配付豫算ヲ經理スヘシ

第十三條　市町村長ハ樣式第四號ニ依リ每月七日迄ニ前月分ノ診療取扱數調ヲ知事ニ報告スヘシ

第十四條　委託出張診療ヲ爲ス醫師ノ出張手當ハ一人一日四圓トス

第十五條　出張手當ノ請求ハ當該市町村長ヨリ請求用紙ノ交付ヲ受ケ之ヲ爲スヘシ

第千六百　第十條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千六百一　委託出張診療ヲ爲ス醫師ハ出張診療ニ支障ナキ限リ一般ノ求メニ應シ診療治療ヲ行フコトヲ妨クス

様式第一號

恩賜診療受療者名簿

診療費用 月	診療費用 金額	備考	全治、死亡、廢療	診療券交附
4 月	圓		昭和　年　月　日	昭和　年　月　日
5 月				
6 月				
7 月				
8 月				
9 月				
10 月				
11 月				
12 月				
1 月				
2 月				
3 月				
計				

氏名　大字　廢藥　年　月　日生

氏名　大字　廢藥　年　月　日生

〔大分書〕

様式第二號

恩賜診療券、療養券交付簿

年　月　日	摘要	受	拂	殘

〔大分書〕

様式第三號

恩賜診療費整理簿

年　月　日	摘要	收入額	支出額	殘額

様式第四號

種別		感冒診療取扱數調			
委託自宅診療	入院	往診	外來	人員	郡市町村名
				人員	延治日數
				人員	實施ノ概況
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	
				人員	

〔大分縣〕

〔大分縣〕

委託出張診療			縣巡回診療			其ノ他			計		
入院	往診	外來	入院	往診	外來	入院	往診	外來	入院	往診	外來

第四章　家畜

第一節　家畜傳染病豫防

●家畜傳染病豫防法施行細則

大正十三年五月二十一日
大分縣令第二十九號

改正　大正一五年七月縣令第七九號

家畜傳染病豫防法施行細則左ノ通定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

家畜傳染病豫防法施行細則

第一條　本則ニ於テ法ト稱スルハ家畜傳染病豫防法、規則ト稱スルハ家畜傳染病豫防法施行規則ヲ謂フ

第二條　法第二條ニ依ル屆出ハ直ニ書面又ハ口頭ヲ以テシ左ノ各號ヲ具スヘシ但獸醫以外ノ者ニ在リテハ第一號第六號及第七號ヲ除クコトヲ得

一、病名
二、畜類、性、毛色、年齢
三、畜主ノ住所氏名
四、發病月日
五、發病地、經過地及現在地
六、診斷又ハ檢案ノ日時
七、發病ノ系統及病勢

前項屆出ノ畜類快復又ハ斃死シタルトキハ直ニ其ノ旨警察官吏若クハ家畜防疫委員ニ屆出ツヘシ

第三條　法第七條ノ執行ニ際シテハ家畜ノ所有者又ハ保管者ハ指定ノ場所ニ於テ其ノ執行ヲ受クヘシ

正當ノ事由ニ依リ前項ノ執行ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ旨當該吏員ニ屆出ツヘシ

第四條　法第三條第二項但書又ハ第四條第二項ニ依リ家畜ヲ殺シ或ハ第八條第一項及第九條ノ但書ニ依リ屍體及物品ヲ焼却若クハ埋却シタルトキハ直ニ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ屆出ツヘシ

第五條　法第十條但書ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其理由ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

第六條　規則第八條第二項ニ依ル標示ハ市町村長ニ於テ別記樣式ノ標杭ヲ建設スヘシ

第七條　規則第十一條第二項ノ期間經過後犬ノ處分ハ警察官署ニ於テ爲スコトヲ得

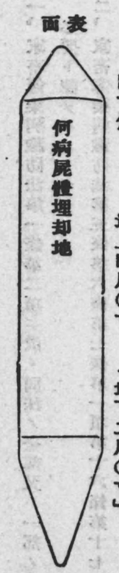
第八條　法第十三條ニ依ル屆出ハ口頭又ハ書面ヲ以テシ第二條第二號乃至第五號ノ外斃死年月日竝ニ屍體處置ノ方法及場所ヲ明ニシ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ提出スヘシ

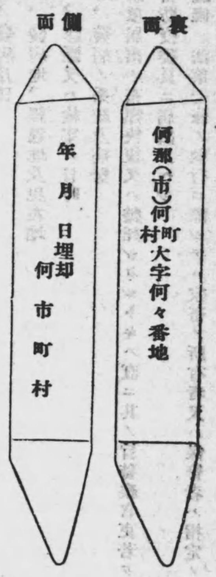
第九條　法第二十四條ニ依ル手當金ハ處分終了後請求書ニ評價書ヲ添ヘ町村役場及市役所ヲ經由シ知事ニ請求スヘシ

第十條　第二條第二項第三條第四條ニ違反シタルモノハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

樣式　標杭雛形

四寸角　地上四尺〇寸　「地下二尺〇寸」





●家畜傳染病豫防法取扱手續

大正十五年五月二十一日
大分縣訓令第十五號

昭和二年　大正一五年七月訓令第四九號

内務部　警察部　市役所　警察署　町村役場
家畜防疫委員

家畜傳染病豫防法取扱手續左ノ通定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

家畜傳染病豫防法取扱手續

第一條　警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病ノ發生若シハ發生ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ警察官吏ハ所屬警察官署長ニ家畜防疫委員ハ其ノ家畜所在地ノ警察官吏ニ急報スヘシ

第二條　家畜傳染病豫防法施行細則第二條ノ屆出ヲ受ケタル警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ直ニ第一號樣式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

第三條　家畜傳染病豫防法施行規則第一條ニ依リ通報ヲ受ケタル市町村長ハ隣接市町村長ニ其旨急報スヘシ

第四條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ左ノ場合遲滯ナク知事ニ報告スヘシ

一、家畜傳染病豫防法第一條第二項ニ依リ同法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認メタルトキ
二、家畜傳染病豫防法第五條第六條第七條第一項第十六條第十七條第一項及第十八條ノ適用ヲ必要ト認メタルトキ
三、家畜傳染病豫防法第十六條第二項ニ依リ交通ヲ遮斷シタルトキ
四、家畜傳染病豫防法施行規則第三條ニ依リ隔離以外ノ處置ヲ爲シタルトキ
五、家畜傳染病豫防法施行細則第四條ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキ
六、家畜傳染病豫防法施行細則第七條ニ依リ犬ノ處分ヲナシタルトキ
七、家畜傳染病豫防法第十四條第一項ノ執行ヲ爲シタルトキ
八、家畜傳染病豫防法第十五條ニ由ル臨檢ヲナシタルトキ

第五條　警察官署ニ於テ家畜傳染病豫防法施行細則第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第六條　警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病豫防法第十三條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其補度知事ニ報告スヘシ

第七條　警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病豫防法第四條第一項及第五條或ハ第六條ニ依リ家畜ヲ殺シ又ハ第六條ニ依リ家畜ノ屍體ヲ剖檢シタルトキハ其顛末ヲ知事ニ報告スヘシ

第八條　家畜傳染病豫防法第二十四條ニ依ル評價書ハ第三號樣式ニ依ルヘシ

附則

明治三十八年七月十一日大分縣訓令第十六號ハ之ヲ廢止ス

番號	病名	畜類	性	毛色	年齢	發病	斃死	殺	恢復	所有者又ハ保管者	
						月日	月日	月日	月日	住所	氏名

備考　發病ノ系統、病勢、屍體ノ處置、其他參考事項

注意　發生報告ナシタル後ニ轉歸報告ヲ爲ストキノ番號ハ同番號ヲ朱書スヘシ

右及報告候也

年　月　日

知　事　宛

警察官吏(家畜防疫委員)

第二號樣式　(削除)

第三號樣式　評價書(一人一葉)

畜類	性	年齢	生死ノ別	物品々目	評價 畜類	評價 物品

所有者又ハ保管者　住所　氏名

注意　畜類及物品ノ評價ハ各個別ニ付記載スヘシ

右評價候也

住所
評價人　職業　氏名　㊞

●家畜傳染病豫防法施行上臨時雇入獸醫及評價人手當金支給方

大正十三年八月十八日
大分縣訓令第二十號

〔郡役所〕市役所　警察署　〔警察分署〕
町村役場

大正十一年四月八日法律第二十九號家畜傳染病豫防法施行上臨時獸醫又ハ評價人ヲ傭入タルトキハ其ノ勤務日數ニ應シ左表ニ依リ手當金ヲ支給ス
大正十年八月大分縣訓令第十四號ハ之ヲ廢止ス

●獸疫檢疫委員ハ家畜防疫委員タルノ件

大正十二年一月三十一日
訓令農第七〇五號

内務部　警察部　〔郡〕市役所　警察署
〔警察分署〕

從來命セラレタル獸疫檢疫ノ委員ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ家畜防疫委員ト心得ヘシ

●移入朝鮮牛取締規則

昭和四年十一月九日
大分縣令第五十七號

移入朝鮮牛取締規則左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

移入朝鮮牛取締規則

第一條　縣外ヨリ朝鮮牛ヲ移入シタル者ハ直ニ其ノ移入先頭數性年齢毛色並特徴ヲ記載シ知事ニ屆出ツヘシ

〔大分警〕

第二條　前條ニ依ル畜牛ヲ移入後九十日以内ニ移動シタル者ハ其ノ都度直ニ畜牛ノ移動先及其ノ畜主ノ住所氏名並前條規定ノ事項ヲ記載シ知事ニ屆出ツヘシ

前項ノ期間中ニ於テ畜牛疾病ニ罹リタルトキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ直ニ其ノ旨知事ニ屆出ツヘシ

第三條　本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

●恐水病患者又ハ被咬傷者ヲ診察治療セシ場合ニ於ケル醫師屆出方

明治三十五年一月十四日
大分縣令第三十九號

醫師ニ於テ恐水病患者又ハ狂犬ニ咬傷セラレタル患者ヲ診察シタルトキハ速ニ書面若クハ口頭ヲ以テ町村長又ハ警察署（警察分署）巡査派出所巡査駐在所ニ屆出ヘシ　轉歸ノ場合亦同シ

●恐水病屆出ヲ受ケタル場合ニ於ケル取扱手續

大正元年十二月十日
大分縣令第十五號

〔郡役所〕警察署〔警察分署〕市役所
町村役場

明治三十五年一月大分縣令第三號ノ屆出ヲ受ケ又ハ其ノ事實ヲ知リタルトキハ左ノ各號ニ依リ措置スヘシ

一　警察署所在ノ市町村長ト警察署長（分署長）トハ直ニ互報シ狂犬ニ對シテハ獸疫豫防法ニ依リ處置シ恐水病患者又ハ被咬傷者ニ對シテハ本人又ハ看護義務者ニ救護並治療ニ付相當注意ヲ與フヘシ

二　警察署所在地外同町村ニ在ル町村長ト警察官吏トハ直ニ互報シ前號ニ依リ處置スルト共ニ先ニ其ノ事實ヲ知得シタル者ヨリ所轄警察署長（分署長）ニ即報スヘシ

三　警察署長（分署長）ハ前第一號第二號ノ場合ニ於テハ相當警戒方關係警察署長（分署長）ニ通報スルト共ニ速ニ左記樣式ニ依リ當廳ニ報告スヘシ

年　月　日　狂犬病獸咬傷報　　警察（分）署

一、咬傷獸畜ノ種別（野犬、飼犬等）及牝牡ノ別
一、同上發病又ハ發見地名及咬傷年月日
一、咬傷ノ場所
一、被咬傷者ノ住所氏名年齢
一、被咬傷者ノ部位（手足等）及其ノ狀況（創傷ノ輕重出血ノ多少等）並其ノ處置（直ニ創部切開洗滌又ハ燒灼等）
一、豫防注射ノ受否（豫防注射ヲ受タル場合何日何地ニ向ケ出發等）
一、咬傷獸畜ノ處置（繫留又ハ撲殺等）及狂犬病ト診斷セシ狀況（繫留シ置キ其ノ經過ニ依リ撲殺剖檢若クハ動物試驗ノ結果ニ依リ又ハ未定等）
一、以上ノ外被咬傷ノ獸畜アラハ其ノ種類（野犬猫飼犬牛、馬羊豚家禽等）頭數及其ノ處置（繫留注意中又ハ撲殺等）

年　月　日　恐水病患者報　　警察（分）署

一、患者ノ住所職業氏名年齢
一、被咬傷ノ年月日
一、被咬傷ノ部位、局部ノ症候、當時ノ處置及豫防注射ノ受否（注射開始及終了時等）
一、發病月日
一、症狀經過
一、轉歸月日

●狂犬病並狂犬ニ疑ハシキ獸畜發生ノ場合ニ於ケル注意方

大正元年十二月十日
達衛第三二九八號警務長通牒

恐水病患者發生又ハ被咬傷者アリタル場合ニ於ケル取扱方ハ本日大分縣訓令第十五號ヲ以テ定メラレ候處其ノ狂犬ニ付テハ獸疫豫防法ニ被咬傷者ニ付テハ右訓令ニ依ルノ外尚左記各項ニ依リ處置セラルヘシ

追テ本件部下ヘ示達スルト共ニ各町村長ヘ通牒シ狂犬發見若クハ被咬傷ノ場合ニ於ケル心得方ハ一般部民ヘ周知方取計ハシメラルヘク尚本件發生ノ場合ニ於ケル町村長トノ連絡方法ハ豫メ協議シ置カルヘシ

一、狂犬病ノ疑ヒアル犬アリタルトキハ速ニ警察部ニ報告シ止ムヲ得サル場合ノ外ハ直ニ撲殺セス之ヲ繫留シ置キ警察獸醫又ハ其他ノ獸醫ヲシテ病性ヲ鑑定セシメ其ノ結果ヲ報告スルコト

「狂犬病ノ病性症候ハ明治三十年二月農商務省告示第四號ノ獸疫豫防心得參照ノ事」

二、前項ノ場合ニ於テハ附近ノ飼犬又ハ野犬等ニ異狀ヲ認ムルモノナキヤ又ハ他ニ獸畜ノ咬傷セラレタルモノナキヤ等調査ニ著手スルコト

「狂犬病ハ迅速ナル傳播ヲナスモノナルニヨリ一頭發見スルニ至リタルトキハ既ニ數頭ノ病獸アルハ從來ノ例ナルニ付他ニ異狀若クハ被咬傷ノ獸畜アリヤ否ヤハ豫防上必要ナルノミナラス前項病性鑑定上ニモ亦大ニ資スル所アリ」

三、第一項ノ犬ニシテ狂犬ト決定シタルトキハ獸疫豫防法ニ依リ處置スルト共ニ直ニ野犬ノ撲殺ヲ勵行シ場合ニ依リテハ飼犬ニ口輪ヲ箝メ又ハ繫留ヲ奬勵スルコト

「野犬ノ撲殺ハ前第一項病性鑑定中ニ於テモ亦必要トス平時ニ於テモ毎年一定ノ時期ニ之ヲ行フヲ可トス」

四、狂犬又ハ狂犬ニ疑ハシキ犬ニ咬傷セラレタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

「咬傷部ハ普通創傷療法ニ於ケルカ如ク石炭酸洗滌沃度フオルム撒布等ニテハ救力薄弱ナリ最モ有效ナルハ咬傷部ヲ直ニ燒灼又ハ苛性加里等ニテ腐蝕セシムルカ若クハ發汁、クレオリン等ニテ洗滌スルヲ可トス」

五、被咬傷ノ場合ニ於テ醫師ノ治療ヲ受クル迄ニ多少ノ時間ヲ要スヘシト認ムルトキハ不取敢發汁ニテ創傷部位ヲ十分ニ洗滌スルコト

「狂犬毒ハ發汁ニハ最モ抵抗力弱ク僅々三分時位ニテ其ノ毒力ヲ失フモノナリ」

六、狂犬又ハ狂犬ニ疑ハシキ犬ノ被咬傷者ニハ直ニ豫防液ノ注射ヲ受クヘキ旨指示スルコト

「狂犬病ノ豫防ハ創傷部位ノ治療ノミニテハ不充分ナリ豫防液ノ注射ヲ以テ絶對完全ノ豫防方法ナリトス豫防注射ヲ指示スル場合ハ警察

部ニ照會セラルヘシ」

●壁蝨熱豫防規則

明治四十五年六月十五日
大分縣令第三十五號

壁蝨熱豫防規則左ノ通定ム

壁蝨熱豫防規則

第一條　壁蝨熱ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタル所有者、管理人又ハ獸醫ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署若ハ市町村長ニ屆出ツヘシ其ノ畜牛斃死シタルトキ亦同シ

一、種類　和種(雜種)(洋種)、朝鮮種)
二、性　牝牛(牡牛)
三、毛色　何毛
四、年齢　何年何月生(又ハ何歳)
五、發病月日　何月何日
六、發病地　何郡(市)何町(村)大字何字何
七、斃死月日　何月何日

第二條　壁蝨熱豫防上必要ト認ムルトキハ當該官吏、吏員ヲ派遣シ畜牛ノ檢診ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第三條　壁蝨熱ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ警察官吏、市町村長又ハ其ノ他ノ當該官吏、吏員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理人ニ於テ之ヲ繫留若ハ隔離スヘシ

第四條　所有者又ハ管理人ハ警察官吏、市町村長又ハ其ノ他ノ當該官吏、吏員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル場所及物品ヲ消毒シ若ハ之ヲ撲棄、埋却スヘシ

第五條　警察官吏、市町村長又ハ其ノ他ノ當該官吏、吏員ハ必要アルトキハ壁蝨熱發生地及ヒ其ノ附近ノ畜牛所有者又ハ管理人ニ對シ壁蝨ノ驅除ヲ命スルコトヲ得

第六條　壁蝨熱又ハ其ノ疑アル畜牛ノ屍體ハ警察官吏、市町村長又ハ其ノ他ノ當該官吏、吏員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理人ニ於テ直ニ之ヲ燒却若ハ埋却スヘシ

第七條　第四條又ハ前條ニ依リ埋却シタル物品及屍體ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第八條　第二條ノ檢診ヲ拒ミ又ハ第五條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處シ第一條第三條第四條第六條第七條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓未滿ノ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治四十三年十二月大分縣令第五十八號ハ之ヲ廢止ス

●壁蝨熱豫防規則施行細則

大正元年八月二十六日
大分縣訓令第二號

改正　大正一五年七月訓令第四七號　　内務部　警察部　市役所　警察署　町村役場

壁蝨熱豫防規則施行細則左ノ通相定ム

壁蝨熱豫防規則施行細則

第一條　規則第一條ノ屆出ヲ受ケタル警察官吏及市町村長ハ相互速ニ通報シ同時ニ市町村長ハ其ノ部内ニ之ヲ標示スヘシ

第二條　規則第一條ノ屆出又ハ前條ノ通報ヲ受ケタル市町村長ハ直ニ隣接市町村長ニ通知シ同時ニ知事ニ報告スヘシ

第三條　規則第二條ニ依リ檢診ヲ行フ場合ハ豫メ其日時ヲ畜牛所有者ニ通知スヘシ

第四條　規則第三條ニ依リ畜牛隔離ヲ要スルトキハ病牛ヲ在來ノ場所ニ留置シ健牛ヲ安全ノ場所ニ移スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ病牛ヲ他ニ移スヘシ

第五條　規則第四條及同第六條ニ依ル物品及屍體ヲ埋却スル土坑ハ深サ八尺以上トシ物品及屍體ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ撒布シ土ヲ以テ土坑ヲ塡塞スヘシ

前項ノ物品及屍體ヲ運搬スルニハ畜牛ヲ用ユヘカラス

第六條　壁蝨熱豫防上消毒ヲ行ハントスルトキハ大正元年八月大分縣告示第二十四號壁蝨熱豫防心得ニ揭ケタル消毒法ニ依ルヘシ

第七條　規則第八條ニ依ル發掘ハ正當ノ事由アル者ニ之ヲ許可シ直ニ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

第八條　本則ニ定メタル以外ノ事項ハ壁蝨熱豫防心得ニ依ルヘシ

附則

明治四十二年十二月　大分縣訓令第二十八號畜牛ノ惡性加答兒熱豫防方法及明治四十三年十二月　大分縣訓令第二十八號壁蝨熱豫防方法ハ之ヲ廢止ス

●壁蝨熱豫防心得

大正元年八月二十六日
大分縣告示第二十四號

改正　大正五年八月告示第二八二號

壁蝨熱豫防心得左ノ如シ

壁蝨熱豫防心得

第一項　本病ハ初期ニ於テ充分ノ手當ヲ施ストキハ恢復スルモノ尠カラサルヲ以テ平素畜牛ノ容態ニ注意シ苟モ異狀ヲ發見シタルトキハ直ニ獸醫ノ診斷ヲ受クルコト

第二項　畜牛ノ健康ヲ促進スルハ豫防上緊要ナルヲ以テ流行地ニ於テハ飼料及飲料ニ注意シ可成滋養ノ飼料ヲ給スルコト

第三項　病牛ハ勿論恢復牛ト雖直ニ使役スルハ宜シカラス充分ニ休養セシメ周密ナル管理ヲ加フルヲ要ス

第四項　本病流行地ノ畜牛ヲ他ニ移動スルニハ左ノ場合ヲ除クノ外危險尠カラサルヲ以テ特ニ注意スルコト

壁蝨ノ存在セサル地方ニ壁蝨ノ附著セサル畜牛ヲ移出スル場合

第五項　流行地ヨリ畜牛ヲ購入シタルトキハ直ニ獸醫ノ檢診ヲ受ケ尙十日間ヲ經テ更ニ再診ヲ受ケ其ノ健康ナルコトヲ確認シタル後ニアラサレハ在來ノ畜牛ト混同飼育セサルコトヲ要ス

第六項　本病發生地ノ畜牛ヲ他ニ移出スルトキ又ハ同地ヨリ移入シタルトキハ綿密ニ壁蝨ノ附著セルヤ否ヤヲ檢索シ若シ發見シタルトキハ直ニ之ヲ捕獲シテ燒却スルコト

第七項　共用牧場ニ於テ本病發生シタルトキハ病牛ヲ直ニ厩舍ニ收容シ其ノ他ノ放牧牛モ亦可成他ノ厩舍ニ收容スルコト

第八項　厩舍內ニ於テ發病シタルトキハ直ニ健牛ヲ隔離スルコト

第九項　本病發生地ニ於テハ可成放牧ヲ禁シ努メテ舍飼ヲ行フコト

第十項　本病發生地ハ勿論其ノ他ノ地方ト雖左ノ方法ニ依リ壁蝨ノ驅除ヲ厳行スルコト

甲、牛體ニ附著スル壁蝨驅除法

(イ)摘除法　此ノ法ハ脂油又ハ徒手ニテ驅除スルカ又ハ木櫛、金櫛等ヲ以テ綿密ニ壁蝨ノ附著スル部分ヲ梳キ採取シタル壁蝨ハ投棄又ハ踏潰スコトナク必ス燒却スルコト

(ロ)藥液塗抹及噴霧法　此ノ法ハ脂油又ハ殺蟲ノ效力アル藥液ヲ牛體ニ塗抹シ又ハ撒布シテ滅殺スルニアリ但シ噴霧ノ藥液ハ稀釋液ヲ撰用シ每週二乃至三回反覆スヘシ

蓖麻油	等分
輕油	三%溶液
クレオリン	

(ハ)藥液驅除法　(多數動物ノ場合ニ應用スヘキ法)ハ左ノ方法ニ依リ行フヘシ

一大浴槽ヲ作リ之ニ藥液ヲ滿ヘ約三分間動物ヲ液中ニ浸スヘシ然ルトキハ壁蝨ハ斃死スルモ更ニ十四日ヲ經テ反覆スヘシ

被毛交換ノ時期ニハ甚タシク皮膚ヲ刺戟スルヲ以テ其ノ際ハ見合スヘシ

浴後直ニ日光ニ晒スヘカラス

藥浴ヲ行フ際藥液ヲ飲マサル樣深ク注意スヘシ

石炭蔘兒	三四「リートル」
曹達	一〇「キログラム」
砒石	四「キログラム」
水	一八〇〇「リートル」

乙、厩舍及其ノ附近ニ於ケル壁蝨驅除法

此ノ法ハ厩舍ノ內外共ニ時々淸潔法ヲ行ヒ敷藁及其ノ他ノ汚物ハ安全ナル場所ニ運搬堆積シ土ヲ覆ヒ又ハ馬糞ヲ混シ少クモ二ケ月以上醱酵セシメタル後ニ非サレハ使用スヘカラス

丙、牧場ニ於ケル壁蝨驅除法

(イ)放牧停止法　此ノ法ハ少クモ一ケ年以上壁蝨ノ存在スル牧野ニ放牧スヘカラス

(ロ)輪牧法　此ノ法土壌等ヲ以テ牧場ヲ區劃シ牛馬ノ出入往來ヲ禁シ一年每ニ交代ニ使用スルコト

放牧セントスル獸畜ハ必ス綿密ニ壁蝨ノ驅除ヲ行ヒタル後放飼スルコト

(ハ)牧場火入法　此ノ法ハ原野ニ於ケル壁蝨驅除ニ最モ有效ナルモノナレハ差支ナキ限リ行フヘシ

但シ驅除ニ有效ノ時期ヲ選定スルヲ要ス

第十一項　壁蝨驅除ニ就テハ市町村又ハ一地方每ニ驅除組合ヲ設ケ勵行スルコト

第十二項　病毒汚染ノ厩舍、器具等ハ總テ嚴重ニ消毒ヲ行フコト

第十三項　屍體並排泄物ハ燒却シ又ハ深ク(八尺以上)埋沒スルコト

第十四項　屍體運搬中ハ排泄物並ニ滲出物及壁蝨ノ落離セサル裝置ヲナスコト

第十五項　厩舍內ノ土ハ深サ一尺以上掘リ起シ淸潔ナル土ト交換シ病毒汚染ノ土ハ石灰ト混シ深ク埋沒スルコト

第十六項　厩舍其ノ他ノ消毒ハ熱滿汁及石灰ヲ用ユルコト

第十七項　左ニ壁蝨熱ノ病症ヲ略說ス

(疫症)本病ハ血液中ニ一種ノ微生體寄生シ紅血球破壞ノ結果血色素尿ノ排泄及貧血症狀ヲ呈スル熱性傳染病ニシテ春季ヨリ秋季ニ亙リ發生シ就中八、九、十月ノ候ニ於テ流行狀態ヲ呈スルコト最モ多ク冬季ニ至レハ一時終熄スルコトアルモ其ノ病毒容易ニ絕滅セス翌春ニ至リ壁蝨ノ發生ト共ニ再ヒ本病ノ發生ヲ見ルニ至ル而シテ本病ニ輕重ノ二症アリ輕症ニ在テハ經過緩慢ニシテ快復スルモノ尠カラスト雖重症ニ在テハ經過急速概ネ二日乃至六日ヲ出テスシテ死ニ轉スルモノ多シ其ノ症狀ノ主ナルモノハ高熱、露出粘膜貧血、沈鬱、脫力、食欲反芻不振、又ハ廢絕、呼吸困難、心悸亢進、便祕下痢、步履强拘、急遽ノ羸瘦、血尿等ナリ就中尿ノ變狀ハ本症主要ノ徵候ナリ然レトモ輕症ニ在テハ之ヲ缺如スルコトアリ又罹畜ニ於テハ流產スルモノ尠カラス

本病ノ傳播ハ牛壁蝨ノ媒介ニ依リ病牛ヨリ健牛ニ傳染ス潛伏期ハ約十日ナリ

●飼犬取締規則

明治三十四年五月十四日
大分縣令第二十七號

改正　明治三九年九月縣令第四二號、大正一五年六月第五〇號

飼犬取締規則左ノ通改定ス

飼犬取締規則

第一條　犬ヲ飼養スル者ハ十日以內ニ其ノ頭數ヲ市町村長ニ屆出一頭每ニ飼犬證票ヲ受クヘシ

飼主ハ其ノ住所氏名ヲ明記シタル頸環又ハ標札ヲ飼犬ノ頸部ニ結著シ之ニ前項ノ證票ヲ付著スヘシ

飼犬證票ナク且飼主分明ナラサル犬ハ無主犬ト看做ス

第二條　飼犬ニシテ左記各號ノ一ニ該當シタル場合ハ飼主ハ速ニ飼犬證票ヲ返納スヘシ但シ證票ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

一　斃死シタルトキ
二　逃失シ又ハ盜難ニ罹リタルトキ
三　賣却又ハ讓與シタルトキ
四　其ノ他飼養ヲ廢止シタルトキ

第三條　飼主其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ所轄ノ市町村長ニ屆出ツヘシ

第四條　飼犬證票ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村長ニ屆出更ニ證票ノ下付ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ證票料金五錢ヲ納付スヘシ

第五條　飼犬ニシテ獵リニ人ニ咆吼シ又ハ咬傷スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官吏ハ飼主ニ繫留ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　飼犬ニシテ人ヲ咬傷シタルトキハ警察官吏ハ飼主ヲシテ之レヲ撲殺セシメ又ハ直ニ撲殺スルコトアルヘシ

第七條　警察官署又ハ町村長ハ獸疫其ノ他危害豫防ノ爲必要ノ時期ニ於テ無主犬ノ撲殺ヲ行フ

第八條　第一條第三條第四條ニ違背シ又ハ第五條第六條ノ命ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●飼犬取締規則施行手續

明治四十四年四月一日
大分縣訓令第二十八號

改正　大正一五年六月訓令第三〇號

市役所　町村役場

大分縣飼犬取締規則施行手續左ノ通定メ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年十月大分縣訓令第十號飼犬取締規則施行手續ハ之ヲ廢止ス

第一條　市町村長ニ於テ飼犬取締規則第二條第三號及第三條ノ屆出ヲ受クルル場合ハ其ノ買受人讓受人又ハ轉居地カ他管内ニ屬スルトキハ直ニ其ノ屆出ノ事項ヲ當該市町村長ニ通知スヘシ

第二條　飼犬證票ハ第一號樣式ニ依リ調製スヘシ

〔大分縣〕

第一號樣式（物質眞鍮）

飼犬之證　大分縣

竪一寸五分五厘
横七分五厘

●町村ニ於テ無主犬ノ撲殺ヲナストキ費用等ノ件

明治三十四年五月二十二日
保發第五二號保安課長通牒

今回大分縣令第二七號ヲ以テ飼犬取締規則公布相成候處同規則第七條ニ依リ町村長ニ於テ無主犬撲殺ヲ行フ場合ハ左ノ例ニ據ラシムル樣御取計相成度依命此段及通牒候也

一　町村長ハ毎年一回以上警察官署ト協議シ無主犬ノ撲殺ヲ行フコト

二　前項撲殺ニ關スル費用ハ獸疫豫防ノ爲ニスル場合ニ於テハ明治二十九年勅令第三七七號ノ規定ニ據リ其ノ他ノ場合ニ於テハ町村制第六十九條末項規定ニ據ルコト

三　撲殺シタル死屍ハ衛生上無害ナル一定ノ地ニ於テ埋却又ハ燒棄スヘシ但獸疫豫防ノ爲メニ行フ場合又ハ獸疫感染ノ疑アル死屍ニ對シテハ獸疫豫防ノ規定ニ據ルコト

第五章　統計

第一節　統計報告表

●衛生ニ關スル統計報告樣式

昭和三年八月四日
大分縣訓令第十一號

警察者　市役所　町村役場　縣立病院
縣立治療院

衛生ニ關スル統計報告樣式別表ノ通改正シ年報ハ昭和三年ノ事實ヨリ月報ハ昭和四年一月分ヨリ之ヲ施行ス

大正三年一月大分縣訓令第一號衛生ニ關スル統計報告樣式、大正二年六月訓令衛第二五四一號衛生警察事務成績統計報告樣式ハ之ヲ廢止ス

〔大分縣〕

發第　號

昭和　年　月　中衛生月報（自第一表　至第十六表）　警察署

昭和　年　月　日進達

一、本表ハ一ヶ月分ノ事務成績ヲ報告スルモノトス、前月中ノ分ヲ翌月十五日限リ進達スヘシ

一、既報ノ事實ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ訂正報ヲナスモノトス

一、記入スヘキ事項ナキ空欄ニハ「―」ヲ塡充シ全表一欄ニ記入ナキトキハ朱線ヲ弱畫スルモノトス

一、表ノ輪廓内ニ記入シ能ハサルモノハ適宜貼繼ヲナスモノトス

第六編　衛生　第五章　統計

（樣式略ス）

發第　號

昭和　年中衛生年報（自一表　至十二表）　警察署

昭和　年　月　日進達

一、本表ハ前年中ノ分ヲ翌年一月二十日限リ進達スヘシ

（樣式略ス）

發第　號

昭和　年中衛生年報（自一表　至四表）　大分縣　郡　市町村長名

昭和　年　月　日進達

一、本表前年中ノ分ヲ翌年一月二十日限リ進達スヘシ

（樣式略ス）

第六章　健康保險

●政府管掌健康保險被保險者ノ助産手當規則

昭和六年十二月十八日
大分縣令第六十六號

改正　昭和七年一二月縣令第六一號

政府管掌健康保險被保險者ノ助産手當規則左ノ通定ム

政府管掌健康保險被保險者ノ助産手當規則

第一條　被保險者分娩ノ場合ハ知事ノ指定シタル健康保險産婆（以下保險産婆ト稱ス）ニ就キ助産手當ヲ受クヘシ

正當ノ理由ナクシテ前項ノ助産手當ヲ受ケサルトキハ分娩費ハ之ヲ給圖ニ減額ス

第二條　前條第一項ノ助産手當ノ範圍左ノ如シ

一、診察及分娩前ノ手當

二、分娩處置

三、分娩後ノ手當

往診ハ保險産婆ノ開業所ヨリノ里程片道二里以内ノ場合ニ限ル

第三條　被保險者産期四箇月以上ニ至リタルトキハ遅メ知事ニ様式第一號ニ依ル届出ヲ爲シ様式第二號ニ依ル助産手當資格證明書ノ交付ヲ受クヘシ

第四條　被保險者助産手當ヲ受ケムトスルトキハ保險産婆中自己ノ選定シタル者ニ就キ前條ノ資格證明書ヲ提出シ其ノ手當ヲ受クヘシ

管轄區域外ノ保險産婆ノ助産手當ヲ受ケムトスルトキハ前項資格證明書ノ外様式第三號ニ依ル申請ヲ爲シ管轄區域外保險産婆ノ助産手當承認書ノ交付ヲ受ケ之ヲ提出シ其ノ手當ヲ受クヘシ

被保險者緊急ノ場合ニシテ前二項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ被保險者證ヲ提示シテ其ノ手當ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後五日以内ニ様式第四號ニ依リ届出ツヘシ

第五條　被保險者前條ノ規定ニ依リ保險産婆ヲ選定シタルトキハ同一ノ分娩ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ知事ノ承認アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　被保險者保險産婆又ハ管轄區域外保險産婆ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ様式第五號ニ依リ申請シ其ノ承認書ノ交付ヲ受ケタル後之ヲ變更セムトスル保險産婆ニ提出スヘシ此ノ場合ノ承認書ハ助産手當資格證明書ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

第七條　被保險者助産手當資格證明書管轄區域外保險産婆ノ助産手當承認書保險産婆變更承認書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ様式第六號ニ依ル再交付願ヲ提出スヘシ

第八條　保險産婆ニ就キ助産手當ヲ受ケタル被保險者ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ其ノ助産手當報酬ヲ直接保險産婆ニ支拂フヘシ

一、被保險者カ助産手當ノ全部ヲ受クサリシ場合ニ於テ正當ノ事由アルトキ

二、健康保險法施行令第八十二條ノ規定ニ依ル資格期間ノ完成ヲ條件トシテ保險産婆ノ手當ヲ受ケタル者ノ分娩カ其ノ豫定日ニ先タチ發生シ條件成就セサリシトキ

三、健康保險法施行令第八十四條ノ規定ニ依リ助産手當ヲ受クヘキモノト豫想シ其ノ手當ヲ受ケタル者ノ分娩カ豫定日ニ遲レテ發生シ條件成就セサリシトキ

第九條　被保險者骨盤狹窄胎位異狀等特別ノ場合ニ於テ産科醫ノ手當ヲ必要トスルトキハ様式第七號ニ依ル申請ヲ爲シ其ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊

急ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ被保險者證ヲ提示シテ其ノ手當ヲ受ケ緊急ノ事由止ミタル後五日以内ニ樣式第八號ニ依ル屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ產科醫ハ保險醫ニ限ル

第十條　第一條乃至第八條ノ規定ハ保險醫タル產科醫ノ助產手當ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

樣式第一號

助產手當屆

被保險者ノ記號番號	被保險者氏名	被保險者生年月	年月生
被保險者所屬工場(事業場)名及所在地			
分娩豫定年月日			
助產手當ヲ受ケムトスル保險產婆ノ氏名及住所			
被保險者資格取得年月日	年　月　日		
被保險者資格喪失年月日	年　月　日		
一、分娩前一年內ニ於ケル被保險者ダリシ日數			

〔大分書〕

樣式第二號

助產手當資格證明書

被保險者證ノ記號番號	被保險者氏名	被保險者生年月	年月生
被保險者所屬工場(事業場)名及所在地			
被保險者資格取得年月日			
被保險者資格喪失年月日			
分娩豫定年月日			

右ノ者保險產婆ニ就キ助產手當ヲ受ケ得ル資格アルコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

大分縣知事　㊞

被保險者ダリシ日數

一、被保險者ノ資格ヲ喪失シタルモノハ其ノ資格喪失後分娩豫定日ノ前日迄ノ日數

右助產手當相受度候條政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第三條ニ依リ資格證明書御交付相受度此段及御屆候也

昭和　年　月　日

大分縣知事　殿

被保險者　住所　氏　名㊞

樣式第三號

管轄區域外保險產婆ノ助產手當承認申請書

被保險者證ノ記號番號	被保險者氏名	被保險者生年月	年月生
被保險者所屬工場(事業場)名及所在地			
分娩又ハ分娩豫定年月日	年　月　日		
管轄區域外保險產婆ノ助產手當ヲ受ケムトスル理由			

〔大分書〕

現ニ助產手當ヲ受ケツツアル保險產婆ノ氏名及住所	
新ニ助產手當ヲ受ケムトスル管轄外保險產婆ノ氏名及住所	

右管轄區域外保險產婆ノ助產手當相受度候條御承認相成度政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第四條第二項ノ規定ニ依リ此段及申請候也

昭和　年　月　日

大分縣知事　殿

被保險者　住所　氏　名㊞

樣式第四號

緊急助產手當屆

被保險者證ノ記號番號	被保險者氏名	被保險者生年月	年月生
被保險者所屬工場(事業場)名及所在地			
被保險者資格取得年月日	年　月　日		
分娩前一年內ニ於ケル被保險者ダリシ日數	日	被保險者資格喪失後分娩又ハ分娩豫定前日迄ノ日數	日
分娩豫定年月日	年　月　日	分娩年月日	年　月　日
緊急ナリシ事由			

右緊急ノ爲被保險者證ヲ以テ助產手當相受候條政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第四條第三項ニ依リ此段及御屆候也

年　月　日

被保險者　住所

様式第五號

保險產婆變更承認申請書

被保險者證ノ記號番號	氏被保險者名	生年月日被保險者
年　月　生		
被保險者所屬工場（事業）名及所在地		
分娩豫定年月日	年　月　日	
助產手當ヲ受ケ初メタル年月日	年　月　日	
現ニ受ケタル助產手當ノ內容		
現ニ助產婆ノ氏名ヲ受ケタル保險ニ住所		
新ニ助產婆ノ氏名ヲ受ケタル保險ニ住所		
保險產婆ヲ變更セントスル事由		

右保險產婆變更承認相受度就府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第六條ニ依リ此段及申請候也

年　月　日

被保險者　住所

氏　名㊞

大分縣知事　殿

備考　本届提出ト同時ニ資格證明書ノ交付ニ必要ナル助產手當届又ハ各種區域外保險產婆ノ助產手當承認申請書ノ提出ヲ爲スヘシ

〔大分縣〕

様式第六號

保險產婆助產手當承認申請書再交付願

被保險者證ノ記號番號	氏被保險者名	生年月日被保險者
年　月　生		
被保險者所屬工場（事業）名及所在地		
毀滅事由		
毀滅年月日		

右保管助產婆保險區域外產婆保險產婆更助產手當承認書毀滅ノ年月日ニ付再交付相受度就府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第七條ニ依リ此段及御願候也

年　月　日

被保險者　住所

氏　名㊞

大分縣知事　殿

〔大分縣〕

様式第七號

產科醫ノ助產手當承認申請書

被保險者氏名																			被保險者生年月　年　月　生
被保險者證ノ記號・番號																			工場（事業場）名及所在地
助產手當開始年月日	年　月　日																		助產手當ヲナシタル保險產婆ノ氏名住所
醫師ノ意見	分娩又ハ分娩豫定年月日	年　月　日																	
	初診年月日	年　月　日																	
	入院所要日數	日間																	
	處置ノ種類	手術																	
		現症狀及特別助產手當ヲ必要トスル事由																	
			費用見積額																
				入院料	手術料	處置料	其ノ他	計											
				圓	點	點	點	點											

年　月　日

特別助產手當ヲ受ケムトスル保險醫ノ氏名及診療所々在地

診療所々在地　保險醫　氏　名㊞

右特別助產手當相受度候條御承認相成度政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第九條ニ依リ此段及申請候也

年　月　日

被保險者　住所　氏　名㊞

大分縣知事　殿

〔大分書〕

樣式第八號

産科醫ノ助產手當屆

被保險者證ノ記號・番號																			被保險者氏名
被保險者所屬工場（事業場）名及所在地																			被保險者生年月　年　月　生
被保險者資格取得年月日	年　月　日																		被保險者資格喪失年月日　年　月　日
分娩豫定年月日	年　月　日																		分娩年月日　年　月　日
助產手當ヲ受ケタル保險醫ノ氏名及住所																			
緊急ナリシ事由																			

右緊急ノ爲被保險者證ヲ以テ助產手當相受候條政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則第九條ニ依リ此段及御屆候也

年　月　日

被保險者　住所　氏　名㊞

大分縣知事　殿

〔大分書〕

●政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當ヲ擔當スル健康保險產婆規則

昭和七年十一月二十九日
大分縣告示第八百二十五號

政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當ヲ擔當スル健康保險產婆規則左ノ通定ム

第一條　本縣內ニ開業所ヲ有スル產婆ニシテ健康保險產婆（以下保險產婆ト稱ス）タラムトスルモノハ縣產婆會ヲ經テ樣式第一號ニ依ル申請書ヲ知事ニ提出スヘシ

第二條　知事ハ前條ノ申請書ニ基キ適當ト認ムルモノヲ保險產婆トシテ指定スルモノトス

第三條　保險產婆ハ健康保險法令及政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則ニ從ヒ被保險者ノ助產手當ヲ爲スモノトス

第四條　保險產婆ノ助產手當ヲ爲ス被保險者ノ範圍ハ本縣管轄ニ屬スル被保險者及管轄區域外ノ被保險者ニシテ其所屬地方長官ノ助產手當ニ關スル承認ヲ受ケタルモノトス

第五條　保險產婆被保險者ヨリ助產手當ヲ求メラレタルトキハ助產手當費

格證明書又ハ保險產婆變更承認書ヲ提出セシメタル後其ノ手當ヲ爲スヘシ

管轄區域外ノ被保險者ヨリ助產手當ヲ求メラレタルトキハ其ノ所屬地方長官ノ助產手當ニ關スル承認書ヲ提出セシメタル後其ノ手當ヲ爲スヘシ

被保險者緊急ノ場合ニシテ前二項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ被保險者證ヲ以テ之ニ代ヘシムルコトヲ得但シ其ノ事由止ミタルトキハ遲滯ナク前各項該當ノ書類ヲ提出セシムヘシ

第六條　保險產婆骨盤狹窄胎位異狀等特別ノ場合ニ於テ產科醫(保險醫)ノ手當ヲ必要ト認ムルトキハ被保險者ヲシテ遲滯ナク其ノ承認申請ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ緊急ニシテ其ノ手續ヲ爲スコト能ハスト認ムル場合ハ被保險者證ヲ以テ其ノ手當ヲ受ケシムヘシ

第七條　保險產婆ノ爲シタル助產手當ノ報酬ハ當該保險產婆ニ對シ知事之ヲ支拂フモノトス

第八條　保險產婆ハ助產手當ヲ完了シ若ハ助產手當ヲ爲サヽルニ至リタルトキハ助產手當資格證明書、保險產婆變更承認書又ハ管轄外地方長官ノ助產手當ニ關スル承認書ヲ添付シ樣式第二號ニ依ル助產手當報酬請求書及助產手當報告書ヲ提出スヘシ

前項ノ助產手當報酬請求書ニハ助產手當ヲ受ケタル被保險者ヲシテ署名捺印セシムルモノトス但シ署名捺印ヲ爲サシムルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ明記スヘシ

第九條　保險產婆助產手當ヲ爲シタル後被保險者カ助產手當ヲ受クルノ資格ナキニ至リタル場合又ハ被保險者カ正當ノ事由ニ因リ助產手當ノ全部ヲ受ケサリシ場合ニ於テハ其ノ既ニ爲シタル手當ノ報酬ハ被保險者ニ直接請求スヘシ

第十條　保險產婆被保險者ヨリ保險給付ノ支給ヲ受クルニ必要ナル證明書又ハ意見書ノ交付ヲ求メラレタルトキハ無償ニテ直ニ之ヲ交付スヘシ

第十一條　保險產婆左ノ各號ノ場合ニ於テハ遲滯ナク之ヲ報告スヘシ

一　被保險者正當ノ事由ナクシテ助產手當ニ關スル指揮ニ從ハサルトキ

二　詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ助產手當ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者アルトキ

第十二條　保險產婆ハ其ノ開業所ノ見易キ箇所ニ樣式第三號ニ依ル健康保險產婆ノ標札ヲ揭クヘシ

第十三條　保險產婆ニシテ助產手當ニ關シ詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ爲シ若ハ其ノ義務ヲ怠リタルモノ又ハ保險產婆トシテ不適當ト認ムル事由アルモノハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條　保險產婆ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲スニ非サレハ保險產婆ヲ辭スルコトヲ得ス但シ疾病負傷其ノ他已ムヲ得サル事由アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　保險產婆ハ樣式第四號ニ依ル被保險者助產取扱簿ヲ調製シ必要ナル事項ヲ明記スヘシ

第十六條　保險產婆ハ助產手當ニ關スル帳簿書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ五箇年間之ヲ保存スヘシ

第十七條　知事ハ保險產婆ニ就キ助產手當ニ關シ帳簿書類ヲ檢閱シ說明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトアルヘシ

第十八條　保險產婆其ノ氏名又ハ開業所ヲ變更シタルトキハ其ノ都度縣產婆會ヲ經テ樣式第五號ニ依リ其ノ旨知事ニ屆出ツヘシ

附　則

本告示ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式第一號

健康保險產婆指定申請書

私儀健康保險產婆トシテ御指定相受度候條此段及申請候也

追而保險產婆トシテ御指定ノ上ハ健康保險法令及政府管掌健康保險被保險者ノ助產手當規則ヲ遵守シ助產手當ニ從事可致候

年　月　日

大分縣知事　殿

開業所(又ハ出張所)

產婆登錄年月日

產婆登錄番號

氏　名　㊞

樣式第二號

助產手當報酬請求書

請求金額		被保險者						
工場(事業場)名及所在地		氏名	生年月	記號番號	住所			

助產手當ノ內容

一　分娩前ノ手當						
二　分娩處置						
三　分娩後ノ手當						
四　其ノ他						
分娩年月日	點眼年月日	體重	性別	生產死產ノ別	流產早產正規產ノ別	多分娩ノ場合ニ於テハ胎兒及胎盤ノ數
年　月　日	年　月　日					

助產手當ヲ受ケタル被保險者ノ署名捺印欄

上記署名捺印不能ナル場合ハ其ノ事由

右請求候也

年　月　日

様式第三號

大分縣知事　殿

助産手當報告書

氏名　生年月日　記號番號　住所　工場（事業場）名及所在地

被保險者

助産手當ノ内容

一　分娩前ノ手當
二　分娩處置
三　分娩後ノ手當
四　其ノ他

年月日　年月日　年月日　年月日　年月日　年月日

分娩年月日　點眼年月日　體重　性別　産生ノ産別死　正流産早産ノ別　胎兒及胎盤ノ數ノ場合ニ於テハ

切取線

保險産婆　氏　名㊞

開業所

右報告候也

年　月　日

大分縣知事　殿

保險産婆　氏　名㊞

開業所

〔大分書〕

様式第四號

備考

被保險者助産取扱簿

健康保險産婆　何　某

被保險者氏名　被保險者生年月　年月生

被保險者住所

被保險者ノ記號番號

被保險者及所在地ノ名（工場事業場）

助産手當ノ内容

一　分娩前ノ手當
二　分娩處置
三　分娩後ノ手當
四　其ノ他

開始年月日　年月日　分娩年月日　年月日　點眼年月日　年月日　體重　性別　産生ノ産別死　正流産早産ノ別　胎兒及胎盤ノ數ノ場合ニ於テハ

備考

〔大分書〕

様式第五號

保險產婆異動屆

一、異動事項　舊
　　新

一、異動ノ日

右及御屆候也

年　月　日

開業所

氏

名㊞

大分縣知事　殿

第六編　衛生（終）

昭和八年四月二十五日　大分縣警察法規類典印刷
昭和八年五月十三日　同　上　發行

大分縣警察部校閲

編輯兼發行者　株式會社帝國地方行政學會代表者　大谷仁兵衛　東京市京橋區銀座西七丁目壹番地

印刷者　大谷保　東京市京橋區銀座西七丁目壹番地

印刷所　行政學會印刷所　東京市荏原區戸越町五〇五番地

警察法規類典　大分縣

發行所　東京市京橋區銀座西七丁目壹番地　振替口座東京一三番　株式會社帝國地方行政學會

Doc 1148